

## 令和4年度 第58回指定都市子ども会育成研究協議会（大阪大会）参加報告

熊本市子ども会育成協議会 会長 山本 一郎

熊本市子協からは4人が参加し、分科会は第1から第3分科会及び推進研究委員会の4つに分かれていましたので、丁度それぞれに1人ずつ参加しました。

第1分科会から第3分科会は同一テーマで、グループ討議による検討課題は①から⑤までありました。私は第3分科会グループAの①「魅力的な活動、行事」に参加し、7人のグループでしたが、その中でも更に2つに分かれ、札幌、大阪さんと3人で話し合いました。少人数の中ですので各々が積極的に意見を出し合うことが出来ました。

前半はそれぞれの活動、行事を出し合いました。その中で、「子ども祭り」、「市内見学」、「稲刈り」など各都市の特色ある活動例が出されました。熊本は「阿蘇でのキャンプ」、「子ども会大会」などを紹介しました。

活動の様子・感想・意見等として、「思い切り遊べて楽しい」、「親子で楽しめる活動」、「親子で没頭し笑顔がいっぱい」、「子どもの成長が感じられる」、「あいさつは大人から子どもへ、あいさつは初めは子どもはしなかったけれど後では子どもから率先してくる様になった。」「キャンプができない地域が多くなってきた。」などが出されました。

大阪では学区（こちらでは校区）で、学校の配慮で学校の校庭で出来る所、出来ないところがあります。火を使つての「かまど、キャンプファイヤー」をすることが出来ず、子どもの楽しみがなくなっている。子どもの習い事が多くなってきている。などの理由から子どもが行事に参加することが少なくなってきている現状です。親が子どもを行事に参加させればよいなどということがみんなの思いでした。

そこで、子ども会未加入の親子にも、行事への参加を促進してはどうだろうか。その体験から子ども会活動の意義・良さを感じてもらい、次からの行事参加へのきっかけとなり、加入促進につながるのではないだろうかという意見も出ました。

今回の分科会では、グループでの話し合いは大変良いものになりました。地域の中での子ども会活動の大切さ・必要さが改めて感じられました。と同時にいろいろな課題があり地域での実践の難しさも改めて認識しました。

今回の研究大会の成果を、今後熊本市子ども会育成協議会の運営・単位子ども会の活性化に生かしていきたいと思いました。

